

昨年、一つの大きなプランがアジア医師連絡協議会(AMDA)本部岡山市椿津)から打ち出された。

■力量が不足

「AMDA国際大学(仮称)——世界でも例のないNGO(非政府組織)による大学設立構想だ。医療援助などの国際協力を展開するNGOであるAMDA。大学は、世界で国際協力に携わる人材養成が目的だ。」

事務局長近藤祐次さん(三)「同所」は菅波茂代表の構想を、複雑な思いで受け止めた。表現には資金面などあま

味わった。どこかに援助の要望がないか、何日もかけて訪ね歩いた末、一既に欧米のNGOの援助を受けている」といわ

AMDA国際大学

りにも課題が多い。試算では、土地、建物、国からの助成金が出ない開学後四年間の運営費を含めると計六十億〜九十億円が必要。しかし、それ以上にプランは魅力的だった。人材養成機関の必要性は自分の体験で痛感していたことでもあり、「このまま

「尽力してみる価値はある。社会的要請があるのも確かだ」。大学設立は、これまでの近藤さん

の歩みの集大成を意味する。い」と三十三歳の時、退社。東京都内の国際協力関連の財団に勤めた。農村開発などを行う海外のNGOなどに資金援助する仕事。一年間のうち三分の一は援助先のアジア各地を回った。「これほど自分の仕事に他人の役に立ち、喜びを感じられるものか」。至福の時だった。

■授業に実習も

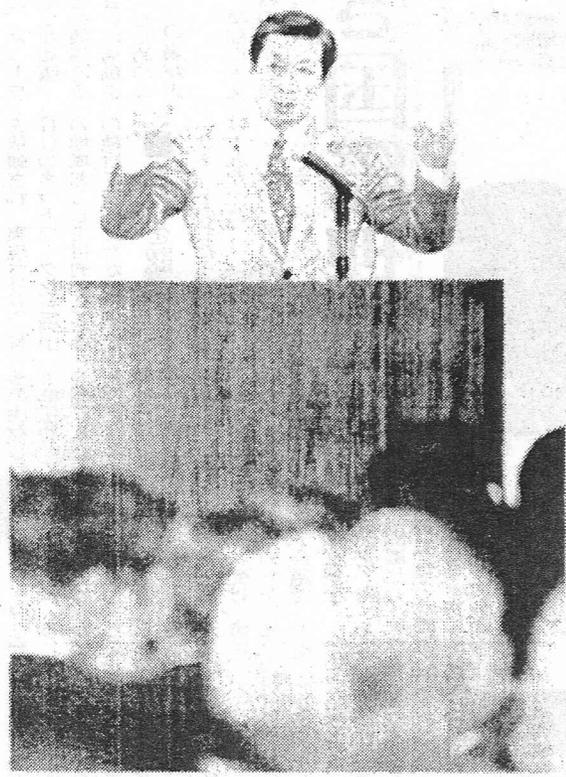
「欧米のNGOはプロの集団であり、一つの産業だ」。AMDAに転身したが昨年

「もともと国際協力に心はなかった」という近藤さんは、脱サラでNGOに身を投じた。福岡県大牟田市出身。中央法学部を卒業後、大手自動車メーカーで海外販売活動に従事。その過程で、次第に自分の生き方に疑問が生まれた。

海外援助のプロ養成

味わった。どこかに援助の要望がないか、何日もかけて訪ね歩いた末、一既に欧米のNGOの援助を受けている」といわ

「もともと国際協力に心はなかった」という近藤さんは、脱サラでNGOに身を投じた。福岡県大牟田市出身。中央法学部を卒業後、大手自動車メーカーで海外販売活動に従事。その過程で、次第に自分の生き方に疑問が生まれた。



講演で「AMDA国際大学」の設立を訴える近藤さん＝岡山市内

が主体で、地域の中まで浸透していない。「もともと日本のNGOが育たないと、国際協力で、日本の顔が見えない」。自らNGOに飛び込む決意を固め、AMDAに転身したが昨年

■自治体と協力

「AMDA国際大学で養成する人材は、まさに欧米のNGOのような国際協力のプロ」と近藤さん。緊急救援や農村開発などの援助プロジェクトに欠かせないのがコーディネーター。活動拠点の確保や物資の調達、国連機関や現地政府との交渉。日本人では絶対的に不足しているのが近藤さんらの願いだ。これまでに県内十、県外三の自治体から問い合わせがあった。

「国際貢献」の融合を自指すAMDA。国際大学の設立はその「決め手」でもある。岡山県下の自治体と組んで、大学を設けたいというのが近藤さんらの願いだ。これまでに県内十、県外三の自治体から問い合わせがあった。

大学設置により、国際協力の研究所や国連機関の施設など、付帯的な整備の可能性も期待できる。地方の国際化の中で迎えてつづける地方分権の流れ。地域特性を見きわめ、自分の住む地域を位置づけることが分権の意味だと、近藤さんは考え

「国際大が養成するのは、そんな『世界都市』の視点を持った人材だ」

「国際大が養成するのは、そんな『世界都市』の視点を持った人材だ」

「世界都市」の視点を